

# 10年後、私たちの住む町は

10年という月日の中で様々な出来事がありました。

これから私たちは、過去に起こったことだけでなく

この先の町の未来、次の世代についても考えなければなりません。

今回、震災からの10年を振り返るとともに

これからの10年について皆さんにお話を聞きました。



この10年は東日本大震災をはじめ自然災害が多発し、新型コロナウイルス感染症が流行するなど誰もが予想できない10年でした。その中で私たち建設業は、インフラ整備や除染など、町の復興・復旧に努めてきました。改めて建設業は日常生活を送るうえでとても大切な仕事だと思えました。しかし、これから10年、建設業界では担い手不足問題が顕著になってくると思います。これからも皆さんが川俣町に安心して暮らせるように、若者の就職や女性の雇用を増やしていきたいと思えます。また震災を経験した世代として、町の未来を担う次の世代に私たちの経験を伝えていかなければならないと思っています。



高校卒業後から30年、飯舘村で花き栽培をしていましたが、原子力発電所の事故により飯舘村に避難指示が出たため農業ができなくなってしまいました。職場を失い困っているところに町の職員の方から補助事業の話を受け、1年後には町内で花き栽培を再開することができました。花きは放射線による風評被害こそ少なかったものの、現在、新型コロナウイルスの影響を受け、先が見えない状況です。しかし、震災を乗り越えたようにこの難局を乗り越え、川俣町で育った花と一緒に皆さんに笑顔をお届けすることができればと思います。そしてこれから10年、花き栽培をはじめとする町の農業を盛り上げていきたいです。

— の東北復興宇宙ミッションを通じ  
— て、川俣の皆さんが思いをひとつにし、これからの未来を担う子どもたちを主役に川俣町の新しい文化を紡いでいただけると幸いです。

一般財団法人ワンアース代表理事  
長谷川 洋一  
よういち



▶ 齋栄織物株式会社が川俣シルクで横断幕の元となる生地を作成し、全国各地から集まった写真をプライムエムが印刷。その後、宗永と福田小学校6年生の協力により絹糸で生地を縫い合わせ横幅7m縦1m10cmの横断幕を完成させました。





アサヒ通信株式会社  
吉野七瀬さん(旧町内)



山木屋地区自治会長  
菅野良弘さん(山木屋)



バターポット  
鳴原百恵さん(山木屋)

震災当日は小学4年生で友だちと学校にいました。実を言うとあの日のことは「怖い」という印象しか残っていません。その後、毎年のようにテレビ等で地震や津波の映像が流れるたびに自分たちの無力さを感じました。しかし、私たちはあの日乗り越え、この10年間で元の生活とまではいかないけれど少しずつ復興してきていると思います。そしてそれは県外の人や外国の皆さんからたくさんの支援があったからだと思います。これからの10年、今度は私たちが恩返しをしていかなければなりません。県や国が関係なく助け合い支え合うことでこれからの未来が明るくなったらいいなと思います。

この10年は短くも長い10年でした。6年間の避難生活は家族や地域の結束力をバラバラにしまいました。住民が震災前の3分の1しか戻ってきていない山木屋地区でどう新しいコミュニティ形成をしていくのか、山木屋地区の自治会長になって2年経ちましたが未だに答えはできません。しかし、そのような中でも季節ごとのイベントがあったり、若い世代の農家が山木屋地区を盛り上げようと動き出しています。10年で元に戻らなくてもこれからの10年である頃の山木屋地区を取り戻したい。これからも「戻ってきたい」「また住みたい」と思ってもらえるような山木屋地区を今いる私たちが作っていこうと思います。

山木屋で薬店とパン屋、美容室と雑貨店を家族で営んでいます。震災当時は「これからどうなるのか」という不安もありましたが「落ち込んでいる暇はない」そう思い3か月後には町内でお店を再開しました。開店当初から今まで町内の皆さんが快く受け入れてくれとても嬉しく思っています。お店をやっている中で一番の楽しみは小さい子がお店に来てくれることです。少子化が進む中で町の宝である子どもたちの笑顔を毎日のようにお店で見ることが仕事を頑張る活力になっています。このお店が皆さんにとって気軽に行けてお話の出来る存在になれるようにこれからもパンを作り続けたいと思います。

## 東北復興宇宙ミッション始動中!!

東日本大震災から10年の節目を迎えるにあたり、復興の歩みや復興支援への感謝を世界に伝える「東北復興宇宙ミッション」。一般財団法人ワンアースとともに被災自治体が協力し特産品を国際宇宙ステーションに届け、震災から復興した東北の姿と感謝の気持ちを、宇宙から世界に伝えようと企画されました。

### 【主なスケジュール】

- 2021年3月11日：感謝のメッセージ動画世界公開へ
- 2021年5月頃：各地からの記念物品打上（米国ファルコン9ロケット&ドラゴン補給船）
- 2021年6月：横断幕、各地記念品とも地上帰還（太平洋着水・ドラゴン補給船）
- 2021年7月：横断幕&各地記念品日本帰国、以後各地で復興および地域振興に活用

